

## 新しい総合計画にかかるタウンミーティング結果報告

日 時：平成 15 年 12 月 23 日（祝）午後 2 時～午後 4 時 00 分

場 所：桔梗が丘公民館

参加者：25 名

出席委員：櫻井委員、亀田委員、川上委員、堀江委員、望月委員、山村委員

市・事務局：企画財政部 家里部長、総合企画室 山口室長、高嶋主査、福田、栗山

- ( 1 ) 開会（企画財政部長）
- ( 2 ) あいさつ（櫻井委員）
- 【午後 2 時～2 時 10 分】

### あいさつ要旨

- ・ 新しい総合計画の審議会ができ、20 名の委員が 9 月 24 日の第 1 回の審議会から第 4 回まで、4 回の会合を重ねてきました。この計画においては、明年 1 月の終わり頃にはまとめ上げ、答申として出させていただきます予定になっています。
- ・ 名張市では、既に平成 13 年 3 月に新世紀創造プランというものができていますが、その後、国そして名張市をめぐる社会環境が大きく変わりました。特に将来人口予測と現状のかい離、厳しい財政状況が認識され、それに対応した新たな計画の基で進めていくことが好ましい、また、より計画性の高い総合計画を策定する必要があるということで、今の計画を見直し、修正を加えていくという目標を持ち、議論しています。
- ・ 新たな総合計画の概要については、各ご家庭に概要版が配布され、ご意見もいただいているようですが、計画策定のひとつのスタンス、あり方として、今までのようにこういう計画があるからやりなさいというのでは到底やっていけず、市民の皆さんにも市のさまざまな運営にあっていただき、新たな行政システム、特に民間的なやり方、それに対応できる仕組みをつくった中で、施策を展開していくことが重要です。
- ・ また、価値の多様性、広がりについてどう対応するか、生活の質をいかに高めていくかということを考える総合計画を策定していきたいと考えています。それには、さまざまな地域からの発想が大事になってきます。皆様のご意見をいただき、審議会での審議に反映させていただくため、今回タウンミーティングとして皆様のご意見を頂戴する場を設けました。また、各委員がどのような思い、考えで審議会委員の役割を務めているかということもお伝えできればと思います。
- ・ これまでの審議会の内容については、できるだけ早くお伝えしたいということで、市のほうでも積極的に公開しています。計画を作り上げる過程というも

のが非常に大事ですので、時間の許す限りご意見をいただきますようお願いいたします。

( 3 ) 出席委員の自己紹介【午後 2 時～2 時 20 分】

- ・ 亀田委員、川上委員、堀江委員、櫻井委員、望月委員、山村委員の順で自己紹介を行う。

( 4 ) 基本構想（原案）説明（事務局）【午後 2 時 20 分～2 時 50 分】

- ・ 「基本構想（素案）＜概要版＞」をもとに、「名張市総合計画審議会の主な論点」と併せて、基本構想（原案）の説明を行う。
- ・ 「前期基本計画（素案）の概要」に基づいて説明を行う。

( 5 ) 意見交換

各委員の計画策定についての考え【午後 2 時 50 分～3 時 20 分】

( 委員 )

- ・ 名張は人口急増により発展しましたが、その反面、一番大切な郷土づくりが後追いになって、名張の顔が見えないように思います。皆さんからの意見を参考にそのあたりを詰めていきたいとします。
- ・ 地域づくりとは何なのかと考えたとき、やはり精神面も含め、文化の育たないまちは乾涸びていくだけです。そういう意味で、名張をどのように表現していくか、それに自然環境、「なりわい」をどう表していくか、歴史を核に「なりわい」を養っていけるまちづくりをしていただければ有り難いと思います。
- ・ 森鷗外の言葉の中に「前なるものが滅びて、後なるものが興らない」という言葉がありますが、名張のアイデンティティーは何かということを考えると、産業的にはベンチャー企業、加えて先見性のある人材を育成する必要があると思います。これまでのような集団主義からの脱皮を急がなければ、新しいものは生まれてきません。長年培われたよい文化と精神を大切にしながら、新しい産業を押し出して、精神的、経済的に豊かな地域に発展する計画を策定すべきではないかと考えています。

( 委員 )

- ・ 名張に住んで 25 年間になりますが、いまだにアイデンティティー、顔になるもの、まちの魅力を象徴するものがなかなか見えない気がします。名張のアイデンティティーは川であり、水であると思います。大阪では、木津川、名張川という川が三重県から流れていることは意識されておらず、県内でも大阪に流れている川が三重県にあるということがあまり知られていません。しかし、淀川を構成す

る三つの大きな川のひとつである木津川は、流量的にも全体の約 23%を受け持っており、昭和 28 年の 13 号台風、34 年の伊勢湾台風で大災害を起こした川で、今年には 13 号台風の 50 周年にあたります。川というものをひとつのまちの大切な源として、川を中心にしたまちづくりを考える必要があるのではと思います。

- ・ 森林の維持管理が林業の衰退を招き、また後継者不足など農業の衰退は避けられない状況にあります。水源地帯の保全、農産物を大阪など下流の流域圏で消費されるような経済圏、システムづくりを審議会でも提案しています。
- ・ 市民の意見がなかなか行政に反映されず、公共事業も市民の意思とは関係なく行政が計画し進めていくということがありましたが、今後は公共事業の推進にも行政が説明責任を果たし、合意形成を図っていくべきだと考えます。そういった行政、仕組みをつくっていきたいと思います。

(委員)

- ・ 桔梗が丘の大半は、以前は美旗地内でした。大阪から永住を考え転入され、お勤めは大阪というかたがたくさんおられると思います。しかし、そのかたたちが定年を迎え、次の世代の若い人たちが大阪へ出て名張に戻ってこないという状況です。若い人が定着するような大胆な発想をしないと先細りするのではないかと懸念しています。
- ・ 農業も笑いが止まらない時代もありましたが、今は見る影もありません。三重県の昨年の統計からいきますと、兼業農家の所得が 870~880 万円、そのうち農業所得は 1 割にも満たない 46 万円になっています。こういった状況では、後継者がなく、土地が荒れていきます。また、農地問題について、県から市に権限が委譲されます。名張市は将来に向けて、真剣に農地行政を考えなければならないと思います。
- ・ 根本的には少子高齢化に手をつけなければならないと思います。農業公園、市民農園、福祉農園などをやっていく必要があると思います。

(委員)

- ・ 亀田委員からは名張の顔、そして名張のアイデンティティーの関係を考えながら審議会にあっていただいているということ、川上委員からは川、水、それから市民活動の関りについて、堀江委員からはいろいろな関係の中で、農を中心としながら、さらに将来に向けて発想の転換という観点からお話いただきました。

(委員)

- ・ 能の文化があるとか、江戸川乱歩が生まれたとか、名張市がどうだから来たというわけではなく、主人の会社がこちらに来たこと、家の値段、通勤圏、子ども

の学校の近いところなど、現実的な問題でこちらに来ました。名張市の歴史、文化などはわからなかったというのが現実です。審議会に出させていただいて、名張市の環境が変わってきている、税収も少子高齢化で少なくなっているという中で、住民が豊かに暮らしていくために何かを考え、何かを犠牲にしながら、一番大切なものを守っていくという観点でやっていかなければならないと考えています。能も江戸川乱歩も、何かここから生まれたということにすぎりついて文化を引っ張り出そうとしているように思いました。みんな一緒になって素敵な名張市をつくろうというときに何が名張市の資源だろうと考えると、自然、文化、人というのは基本的なものですので、それをどう捉えるかということは、審議会に参加しながら意見も言わせていただいています。やはり、名張市の中で飛び立つものがないように感じました。全国に発信できる名張市をつくっていきたいと心も変わってきています。

- ・ 民生委員の会議で、10年後どういうまちに住みたいかという質問をしたら、安心できるまち、心豊かになれるまち、自分が自分らしく楽しく生きられるまち、健康な生活、生きがいを持つ、自立する、仲間づくりという面でのまちづくりが挙げられました。基本構想でも同じ内容が言われていますが、私たちが求めているのはもっと幅広いのではないかと思います。行政も変わってきていますし、審議会の資料もすばらしいものができています。しかし、ほんとに実現できるのか、できたらどうなるのだろうかということに疑問を感じています。
- ・ 実施計画になります。ひとつの拠点をつくり、文化、川、水、農業などがひとつの場所から広がっていく、市外の人々が名張を訪れたとき、そこへ行けばそこからいろいろなところにアクセスしていければいいなと考えています。

#### (委員)

- ・ 私が市議会に立候補した昭和57年には、名張の人口は4万そこそこでした。住宅開発が進み、人口急増が推測された中で、いろいろな努力目標を掲げ選挙を戦ったことを思い出します。その努力目標のひとつに、新旧市民の調和のとれたまちづくり、新しい住民のかたとしっかりと手を結んで名張市をつくっていかねば到底うまくいかないだろうと考え、皆さんの生の声を行政に反映させていこうと、子ども会活動などを通じ交流を心がけました。
- ・ まちの顔づくりの問題がありますが、いったい名張の中心市街地はどこにあるのか？ 当然、名張駅桔梗が丘線、旧市街地と桔梗が丘を結んで、その周辺が中心市街地という位置付けが総合計画でもされています。東土地区画整理事業、今の鴻之台周辺は完成し、西土地区画整理事業も終盤に近づいていますが、名張駅前から中央西土地区画、そして鴻之台、桔梗が丘のまちづくりをしっかりとできないと、どこが中心かわかりません。名張駅の東口は道路整備などがされまし

たが、旧市街地に続く西口は昔のままです。道路行政はかなり進みましたが、165号線の渋滞、上野名張間の4斜線化、名阪国道へのアクセスなど課題が解決されると産業面、観光面もよくなります。道路行政、産業の振興なども含めて計画に反映していきたいと思います。

(委員)

- ・ 望月委員からは名張だから住みたいという発想で、山村委員からは今までの施策についての流れ、外からの繋がりを持つまちにということでお話いただきました。

参加者との意見交換【午後3時～4時00分】

(参加者)

- ・ お話を聞かせていただいて、非常に結構だと思います。しかし、リストラ、間もなく定年を迎える人が多く、税収は減っていきます。そんな中で、予算は増えているのですか？

(委員)

- ・ 税収そのものはある程度のクリアはしていますが、総額的にはここ数年減少状態にあります。名張市はこれから単独行政をやっていかなければならないということで、亀井市長は財政危機問題を取り上げ、職員の給与も含め改革に取り組んでいます。

(参加者)

- ・ 役所のどこの部署に行っても、予算がないという話がついてまわってきます。これからますます税収が減っていくことが予想されます。名張は単独行政を進めるということですし、きれいな話もいいですが、もっとお金の入る話を。
- ・ まちに魅力がないから若者が出て行きます。長い目で見ると、もっと繁栄するまちづくりをしていかなければならないと思います。そのためには、商業地への用途変更を考えるべきです。
- ・ 今後、人口は何人ぐらいになるとお考えですか？

(委員)

- ・ 現在85,000人ぐらいですが、逆に減少している状況ですので、将来人口はあまり多くは見込めないと思います。
- ・ 議会としても、財政が厳しいと言っている中で、市民の思い、要望などにどう対応してくれるのかということ、常に行政に言わせていただいておりますが、経

常経費がどんどん増えていく中で、投資的経費を何とか確保するという現状です。名張だけでなく、全国的に厳しく、国自身も 700 兆円もの借金を抱えています。合併したとしても、一時的には特例債が使える仕組みですが、最終的には借金として残っていきますので、どれがいいか悪いかということがわからない部分があります。

(委員)

- ・ 今のご意見は、特に税収の問題あるいは若者の定着についてのご意見でしたが、それが大きな計画を見直すきっかけにもなっていますので、ご意見を踏まえたうえで審議していきたいと思います。先程の事務局からの説明で、将来の都市像や大きな枠組みなどについて、こういう視点が抜けているのではないかといったことについて、ご意見をいただきたいと思います。

(参加者)

- ・ バラ色の計画のようですが、計画の段階からもっと負の部分をはっきりと明らかにして、痛みを分かち合い、特定の人にしわ寄せが来ないようにしてほしいと思います。例えば、ごみの有料化ということも考えないといけないと思いますが、各家庭に人数などを考慮したうえで、ごみ袋を配布し、それ以上は買わないと出せないようにするなど。
- ・ 農業の後継者不足の問題は、定年後の元気な人たちの力を利用しない手はないと思います。田んぼを貸し、指導もするというシステムをつくれればよいと思います。指導を受け、やっとならできるようになった頃に足腰が立たないということがおこってくるかもしれませんが、それでもよいと思います。草引きをしていただだけでも有り難いのではないのでしょうか。また、健康にもつながると思います。
- ・ まちの顔づくりは、江戸川乱歩や能にこだわる必要はないと思います。名張は住みよいまち、文化レベル、教育レベルの高いことなどで、発信していければよいと思います。
- ・ 若者が定着しないから、魅力のあるまちづくりをということですが、一方で、どんなによいまちにしても勤務先が遠ければ若者の定住は難しい、ということを手頭に入れておかなければいけないと思います。

(委員)

- ・ 高齢者が福祉施設に入らず、花や野菜をつくる楽しみを持てるように、また定年後のかたを指導して、朝市などに参加いただければと考えています。
- ・ 地産地消というのはよくご存知だと思いますが、私は地消地産ということを行っています。地域のかたのほしいものを責任を持ってつくることがこれが

の農業には必要だと思えます。そうすると少量では業として成り立ちませんので、学校給食から見直してほしいと思っています。そこで安心、安全も確保されます。生産者も少しはお手伝いをするという気持ちで責任を持って生産し、市のセンターが採配をするという方向に進みたいと考えています。

(参加者)

- ・ 短期、中期、長期のカテゴリーをわけていただきたいと思えます。今現実的に何ができるのか、例えば通学路の歩道の整備など、確かに市は計画的に整備していますが、どこからやるべきかという調査を怠っているのではないかと思います。現実にもある歩道が危険である、通学路が暗い、こういった短期的なことも含めて、カテゴリーをわけてやっていただきたい。
- ・ 学校区の問題について、5番町の子どもたちは桔梗が丘中学校を横目で見ながら北中学校に通っています。また、桔梗西の人口が増えていますが、通学路にしても駅を挟んで東西の連絡道がありません。まちづくり委員会でも検討しましたが多額の費用がかかる問題です。また、南小学校は各学年1クラス、180名しかいません。個人的には桔梗が丘小学校に統合してもよいのではないかと思います。長期的には道路事業の問題、学校区の問題など、桔梗が丘の将来像も含め考えていただきたいと思えます。下水道の問題など、問題点の見直しを調査研究からやっていただくこともひとつの方策だと思えます。

(委員)

- ・ 個人的な考えかも知れませんが、今おっしゃった短期、中期、長期というのは、基本的な構想に対して、具体的にどう実現していくかという中でのひとつの組み立てだと思えます。
- ・ ひとつは今お住まいの地域により深くつながっていく部分での戦略をどうしていくかということですが、私自身はこういった問題をそれぞれの地域でどう解決していくかということが重要だと思えます。今までは「こうしてくれ」「頼む」というかたちでしたが、もっと地域に任せてもらい、地域で計画を立て実施していくという仕組みが総合計画の中に反映できればと思っています。個別の地域以外につながっていくことは、どういうふうに合意形成をしながらつくり上げていくかということを議論し、やりやすい仕組みをつくるということも課題だと思っています。ご意見を踏まえて、地域でも議論いただきたいと思えます。

(参加者)

- ・ 人が集まらないとまちは発展しません。住宅開発により人口が増えましたが、子どもたちには住んでもらえず取り残された結果、高齢化が進んだというのが現

状です。どうすれば人が集まるかということですが、新たな住宅開発をするわけにもいきません。例えば農地を借りて、株式会社 農業というものをつくり、企業誘致は無理でもできるだけ地元で就職するような政策をとってはどうか。会社ということになれば若い人も定住してくれるのではないかと、また都会には自然に戻りたいという人がたくさんいますので、そういう人たちが定住してくれるのではないかと思います。

- ・ 合併問題について、2月の住民投票は伊賀6市町村との合併をどうするかという選択でしたが、選択肢は他にもあると思います。県境を越えて合併することになれば人も集まると思います。しかし合併には、選択を誤って、かえってお荷物を背負ってしまうということもあります。そういったことも考慮して、もう一度合併の選択肢を考えるべきだと思います。

(委員)

- ・ 農業について、株式会社は難しいです。特区ができで、東京などではやろうとしている人はいますが、ギブアップした場合に手が届かなくなることを農水省は心配しています。農業法人は農地の取得はできませんが、借りることはできます。差し当たっては農業法人で進めていきたいと考えています。

(参加者)

- ・ 商業を中心としたまちづくりをお願いしたいと思います。大阪府の工業団地では、企業の海外移転などにより50社あった企業が10社不足になったため、3万坪の土地のうち、1万坪に企業をまとめ、残りの2万坪を商業地に用途変更した例があります。大きな量販店が進出してくれば、税収も増えると思います。

(委員)

- ・ まちに賑わいが必要で、産業を立て直そうということだと思いますが、どう考えても人口は減少していきます。また、日本の人口が半分になっても、大都市の人口はあまり減らず、スプロール化した地域、農山村の人口が激減するだろうと研究者の間では言われています。これを回避しようとしても物理的に不可能な面がありますので、そのことを念頭において計画をつくっていかねばならないと思います。
- ・ 計画に求められているのは、名張の地勢、人材などを活かした新たな農業、商業のあり方などを育成することだと思います。行政としても、地域としても、そういったものを応援していく仕組みが必要だと思います。しかし、農業も用途変更も、社会の枠組みというかパラダイム、法制度が時代の方向に合っていない。農家しか農地を持ってないというシステムを解禁してはという考えも出ているよ



うです。市民農園レベルではなく、市営農場のようなものをつくり、計画的に生産し安定供給を図り、大阪など大都市で消費してもらうというようなことをしないといけないと思います。

(参加者)

- ・ 県が防災地域を指定しましたが、市として防災にどう取り組んでいくかということをお聞きしたいです。

(事務局)

- ・ 防災、消防、救急、防犯などはそれぞれ専門的な取り組みが必要ですが、基本的な考えとして、市民の安全を確保する条例を整備し、総合的な取り組みを進めていきたいと考えています。しかし、現実に災害があったときに何が頼りになるかということ、当然行政も対応しますが、やはり家族と近隣のかたがただと思います。防犯についても、地域の連携がうまくとれていると犯罪は減ると言われています。そういったことを考えると、自主防災隊の充実、その活動の支援なども含めて、コミュニティ機能の充実を図ることが大切だと考えます。

(参加者)

- ・ 西地区には避難場所がありません。線路を越えて避難するというのは危険ですので、かがやきを避難場所に指定するなど検討いただきたいと思います。

(委員)

- ・ 皆さんからのご意見、ご指摘いただいたことを審議会の他の委員にも明らかにして、審議していきたいと思います。

(事務局)

- ・ これまでは計画ができた後の報告というかたちでしたが、今までに例のない計画策定中に皆さんのご意見をお聞きするというので、今日のタウンミーティングを審議会で企画いただきました。本日はありがとうございました。